

「チョットとスティックス」

佐賀整肢学園こども発達医療センター
立石 加奈子

【目的】

箸操作は掌側に空間を作り、箸を保持しながら手指で操作する複雑な動作であり、発達段階では個人差はあるが2歳位で興味を示し始める日常生活動作である。

箸操作の練習を開始する際、上記のような複雑な動作はこどもにとって理解が難しく、特に運動機能や認知機能に障害を持つこどもにとっては動作学習がより困難な場合が多く、失敗体験になりやすい。

そこで、箸操作訓練用具「チョットとスティックス」を制作した。目的は箸操作を獲得する一つのステップとして、まずはこどもが箸を使い食べることに慣れ、さらに成功体験を持ってもらうことである。使用する対象がこどもの場合、訓練室でのみ練習を行っても、限られた場所での限られた動作となり、また動作の獲得までに時間を要す。より生活に即したアプローチを行うために、訓練用具は生活用具である必要があり、日常生活でも気軽に使用できることが望ましい。箸を使つての食事が生活の一部となり、本品を使用し実際においしいご飯が食べられることで、こどもたちのモチベーションも上がり、達成感を得ることが出来る。

「チョットとスティックス」：小さな(チョット)部品で箸(chopsticks)の操作ができる道具

【制作方法】

1. クリップのつまみ部分に布製テープ(例:テーピングテープなど)を巻く(接着剤がしみこみやすくなる)。
2. 1の部分に瞬間接着剤をつける。
3. 2の部分にそれぞれ鉛筆用キャップを固定する。
4. クリップのはさみ部分に3mmほどの厚紙をかませる。
5. 接合部分にテープを巻く。

【効果】

使用方法: キャップ部分に箸を差し込み、通常の箸と同

様に使用できる。長所として、2つのキャップがクリップで連結されている為、2本の箸がバラバラになることがなく、また母指と示指の対立のみで挟むことができ動作が容易である。重量も5gと軽く、箸操作にはほとんど影響を与えず、軽い力で挟むことができる。

使用する箸: 訓練室や家庭で使用する自分用の箸、または外食先などで使用する割り箸など、様々なものに装着することが可能であり、段階付け及び応用が行いやすい。

大きさ: 5cm×2cmと小型であり持ち運びが容易である。家庭や外出先など訓練室以外の様々な場所での使用が可能である。

衛生面: 市販品の福祉用具では、箸本体に連結部が付いている物が多いが、本品は箸に装着するタイプである。箸の上方に装着するため、使用時に汚れることはほとんどない。また箸を取り外すことができる為、実際の食事場面で使用しても箸の洗浄が可能であり、衛生的である。

制作材料及び方法: 材料は文房具売り場で売られているものばかりであり、制作方法も簡単で短時間で作ることができる。そのため、破損したときや複数個必要なときに、必要な個数を家族が作成することもできる。

制作費: 本品と同様の挟みやすい箸は福祉用具として1000～2500円で市販されているが、箸操作を獲得する一つのステップとして使用する物としては高価である。本品は、市販の鉛筆用キャップとクリップを使用し、費用も約55円と安価である。

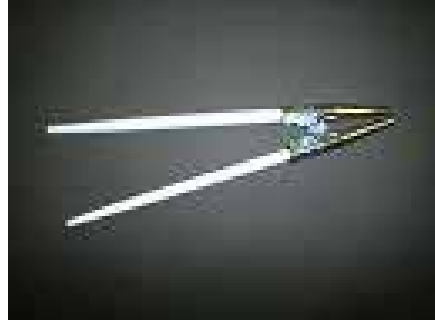
【使用例】

- ・手指の分離や動作学習が苦手な脳性まひや知的発達に遅れを持つこどもの、箸導入時及び実際の使用時
- ・手指の巧緻性に不自由を持つ方
- ・利き手交換をされた方

(1) 作品の全体写真



「チョットスティックス」本体



箸装着時

(2) 使用風景写真

目的物をとらえる → 挟む
(最大4.5cm開く)



(3) 作品の特徴を示す写真

箸の着脱が可能



各種箸への装着が自由自在(また持ち運びにも便利!)

プラスチック箸 木製箸 割り箸

